２０１５年　５月　２０日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理　事　長　喜　多　　悦　子　殿

所属機関・職名
浅草医師会立訪問看護ステーション

研 修 者 氏 名　　倉持　雅代　　印

２０１４年度日本財団ホスピスナースネットワーク会員に対する海外研修助成
研　修　報　告　書　の　提　出　に　つ　い　て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

１．研 修 期 間　２０１５年 ４月３０日 ～ ５月 ３日（４日間）

２．参加学会名　Asia Pacific Hospice Palliative Care Network 2015 Taipei

３．研修報告書（注　研修報告書はＡ４判横書き）

Ⅰ　本研修の成果：学んだこと、今後役立つと思う点について

Ⅱ　今後の課題等

Ⅲ　本研修助成についての改善点及び当財団へ対するご意見ご要望など

Ⅰ　本研修の成果：学んだこと、今後役立つと思う点について

ホスピスケア、緩和ケアに対しての思い、実践、現状、困難については、日頃実践しつつ感じていることと似たようなことが起きているのだと感じた。ホスピスが初めて日本で紹介されたのが1977年、1981年に日本に初めてのホスピスが誕生し、本会議が開催されて約20年、確実に時代は進み、ホスピスケアの概念も広がっているものの、まだまだ全医療者に浸透しておらず、医療職・一般市民への普及が必要と感じた。

本会議がどのような経緯で開催に至ったのか知らずに参加してしまったが、喜多先生や中村様より話を聞き、日野原先生が深く関わっておられたことを知った。そのような会議に参加でき、私にとってずっと支えになっていたRosalie Shaw先生に再会できたことが最大のお土産となった。

Rosalie Shaw先生は日本財団ホスピスナース研修会2002年第一回、2003年第二回で「看護の役割」「コミュニケーション」「全人的ケア」「自分自身のケア・他者へのケア」について講演されている。当時は認定看護師も数少なく、認定看護師としての活動もまだ手探りの中で実践している状況であった。特にホスピスケア認定看護師で在宅をフィールドとしている者はほとんどなく、自分自身がリーダーシップを取らなければならない環境の中、日々、「自分がちゃんと出来ているんだろうか、間違っていないだろうか、間違えたくない」という思いと「病院の看護師と比べて取り残されていないか」という不安でいっぱいだった。他者の評価を気にする自分がいて、自信が持てない自分がいた。そんな中で聴いたRosalie Shaw先生の言葉は一つ一つが心に沁みこみ、やっていることを認めてもらい、後ろから後押ししてくれているように感じた。10年以上たち、この会議に貢献されているRosalie Shaw先生に会えたことで改めて当時の資料を振り返ると、今やっていることがすべて当てはまっており、改めて原点は変わらず、大事なことは自分の中で自分のものとして育ち、そして自分がまた伝えていっていることに驚きを感じている。

今回、APHCに参加することで、ホスピスケアに対する自分自身の初心を振り返り、見直す機会となった。ずっと変わらずに大事にしていきたいことと、改めて世界の状況を知りつつ、日本での動向に目を向け学び、目の前の患者さん方への実践と周囲の援助職者らへの教育に携わっていきたいと思う。

Ⅱ　今後の課題等

英語力を身に着けること。

“ホスピスケアマインド”を忘れずに緩和ケアを学び続け、対人援助職種らそして一般市民へ啓もうしていくこと。

Ⅲ　本研修助成についての改善点及び当財団へ対するご意見ご要望など

英語が苦手な私は、このような助成の機会がなかったら、国際会議に参加する機会は全くないままに終わっていたと思います。改めて参加させていただく機会を得たことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

私のような者がたくさんいることと思います。是非、このような機会への助成を続けていただきたいと思います。

また、本当に勝手なお願いではありますが、是非もう一度Rosalie Shaw先生を招聘していただきたいと強く要望いたします。